



NEW～ブログを応援してください。

ブログ「西大路駅前タクシー乗り場」

<http://moon.ap.teacup.com/7012/>

①この本の売り上げはすべて東北、関東大震災の義援金になります。(100円) 老人と性「京都タクシードライバー・さくら」...短編小説13話

<http://p.booklog.jp/book/18483>

②この本の売り上げはすべて東北、関東大震災の義援金になります。(100円) 天使の恋～美雪...早苗...香奈～3名の恋の物語

<http://p.booklog.jp/book/18492>

③この本の売り上げはすべて東北、関東大震災の義援金になります。(100円) 天使の恋～美幸...明美...真弓...梨香...4名の恋～全24話(読切り)

<http://p.booklog.jp/book/19028>

☆☆☆～おたべ人形 おたべちゃんの双子の妹～巫女ちゃんの写真が公開されました。

<http://blue.ap.teacup.com/inari/828.html>

★～タクシー代はHで相殺！

昨日は雪の中若い女性とドライブを楽しみました。行き先は福井県の小浜の海岸にあるシャレたペンションまでの約2時間98キロでタクシー料金は約2万円でした。

その女性は東京から来たというAさん、そのAさんは昨夜女友達3人と駅前のホテルに泊まり今日の朝の特急で敦賀経由で小浜に「カニ三昧の旅」に行く予定でしたが、ホームに着いてからホテルに携帯電話を忘れたことに気がつき、ホームに2人を待たしたまま一人でホテルに携帯を取りに戻りました。

ところがどこをどう間違えたのか駅の北口（タワー側）に出たようで、そこでホテルを探したのですが当然ホテルはなく時間を気にしながらタクシーに乗ったのですが、そこで「新・都ホテル」というのを「都ホテル」といったのですからタクシーは「都ホテル」に向かって走ります。これはすぐに気がつきUターンしてもらい「新・都ホテル」で携帯を受け取りホームを走っている最中に友人に携帯で「間に会うから先に乗っていて、私は一番前のドアから乗る」といいながらホームへの階段を降りたらそこには特急ではなく普通電車が停まっていた！その時隣のホームで発車ベルがむなしく鳴ったと涙声でAさんは語ってくれました。

そのAさんに乗せた私のタクシーは、大津から湖西道路～今津～国道303号線を通って小浜に着いたのですが、時間はまだ10時30分でAさんの友人が敦賀観光を済ませて小浜に着くのが午後の3時ですからAさんは困って私に、

「運転手さん、どこかでお茶でも」

「いや、お茶よりここから半島沿いにドライブしませんか？実は私の前の嫁さんともうかなりの昔ですが、ここまでドライブに来てラブホテルに泊まったことがあるのです。そのときが嫁さんとの初めての日でした」

「へえ～ロマンチックな話ですネ、それでアノ～」

「いえいえ、運賃はここままで、これから3時までは私のオゴリです」

「そう～うれしい～」

それからAさんを前の助手席に乗ってもらい名前を聞いたのです。Aさんは光恵といい東京の女子大生でコンビニのアルバイトでお金をためてはじめての旅行だったそうです。光恵は、

「あの～その～前の奥様とはじめてのHのラブホテルはどこに...」

「そう、たしか～この先です～」

「へえ～なんかロマンチックね～」

「まあ～そんな昔に帰りたい気分です...」

「運転手さん、私さっき頭の中で計算したの！コンビニの時給が780円。私のドジで約一週間分のお金がタクシー代に消えるの～」

「そら～まあ～同情はしますが...」

「運転手さん、お願い...私のからだで～そのタクシー代を...」

そのラブホテルはまだそのままありました。私はたしかに若い光恵を抱きましたが、それは前の嫁さんも偶然にも光恵といい、その光恵を抱いているような錯覚で～いや～走馬灯のごとくというのか～ロマンチックなひと時で、神様からの素敵なお正月のプレゼントでした。

☆～老人の性「タクシー王はスリの大親分だった！前科十一犯」～

日本のタクシー業界の風雲児と呼ばれて全国的にも超有名なハートタクシーのオーナー青ちゃんから電話があった。さくらと客とはお互いに呼び捨てにする決まりになっている。

「あら～青ちゃん、今日の新聞にデカデカと・・・会長を引退するんだって？」

「そう、ワシももう80歳になった。後生きても10年・・・」

「何を言っているの、日本一のタクシー会社にしたことで満足しているの？さくらとの約束を忘れたの？」

「さくら何を言っている、アッチの日本一はまだこれからだ！さくらを満足させてはいない！」

「違うの！満足はさくらしているよ。その～最高齢のセックスの日本一よ！」

「そうか～いや、そんなことより、さくらたしか小説の勉強をしていると聞いていたけど～」

「はい、なんとか書いてはネットで発表しています」

「ほなら、ワシの自叙伝を書いたら？」

「でも～青ちゃんの自叙伝は、さくら二冊も持っていますよ！」

「そ、それはタクシー会社を経営する前後から始まっている、むしろワシの人生でおもしろいのは、その前の恥部で、出版されたら絶対大ヒットする」

「青ちゃんの恥部・・・そんな書いたら青ちゃんが・・・」

「いや、ワシは見た目は派手だけど実は借金王で、さくらには財産を残せないから本のネタを残す、いやさくらに書いてほしい」

京都H交通の女性タクシードライバー「さくら」は、29歳だが持ち前の可愛さと色白美人で年よりはかなり若く見られている。いつからかお年寄り専門のセックスカウンセラーを始めていた。今日の客の青ちゃんと二人で、南禅寺の隠れラブホテルのベッドでさくらは真っ裸でセクシーポーズをとっていた。それを見ながら青ちゃんは話を始めた。

「ワシが立命の法学部に入学したころは学生運動が大流行で、ワシも全学連の闘志としてデモに参加していた。ある日警察官と衝突して逮捕され、運よく執行猶予になったが、その猶予期間中にまた警察官と衝突してワシはゲバ棒で警察官を傷付けた、今度は刑務所行きが確定でそれが怖くて京都駅から汽車で逃げた。たまたま着いたのがK県のK市だった」

「へえ～青ちゃん、そんな前科があったの？」

「いや、これは序の口で、それで食うに困って地元のやくざの世話になった。その組は「スリ」の元締めでワシはここでスリの修行を始めて2年でその組のナンバーワンの稼ぎ手になった、そこでワシは日本一のスリになろうと思った」

「お～おうおう！青ちゃん、スリだったの？それにしても日本一が好きネ」

「さくらワシはアッチも日本一だと思っている。そのころそのスリの大親分が脳溢血で倒れて死んだ、ワシはまだ23歳でその親分の嫁はんは55歳だったが寝んごろになってその組の二代目になったが、古手の裏切りで警察に密告されて2年間の刑務所暮らし、出所してみると組は警察に解散さされていた」

「へえ～青ちゃん、こんな話を誰が知っているの？」

「いや誰も、息子たちも親戚も知らない、もうこの世ではさくらだけだ！」

「そんな大事なことを・・・」

「出所してからというのは警察からマークされているのかすることすることすぐに逮捕されて前科は11犯まで...」

「11犯...」

「それからK市では何をしてもだめと無一文で京都に帰って駅前の電柱に張ってあったM石油商会の配達員募集の広告でM石油商会に入った。その会社は従業員5～6名で社長は68歳で妻は64歳だった。ワシはある時その嫁はんをそそのかして犯してしまった。それからは会社の二階の3畳一間の部屋にその嫁はんは酒や食事を運んでくれた。その1年後に社長がポックリあの世に逝った、それからワシが番頭になり店を大きくした」

「へえ～それがあのM石油なのね！でも青ちゃん商売が上手いネ」

「さくらワシは何でも命がけでやる！アッチそうだ！その64歳の嫁はんがワシのチンチンに夢中になるように時には妙薬や女の局部にヒロポンを注射したりして淫乱女になる教育をした」

さくらは青ちゃんの話聞きながらも、青ちゃんの好きなアクロバットセクシーポーズをとってはいるが、肝心のペニスはダラリとお辞儀をしている。

「それから昭和35年にたった10台でタクシー会社を経営して今では1000台を超えている。ワシは今まで金儲けのために女を抱いて利用してきたが、必ずその女にセックスの真髓を教えて感謝されても誰も不幸にはしていない」

「でも何でそんな話をさくらに？」

「ワシの抱いた女は年寄りばかりで嫌々サービスをしていた金のために！しかし、ワシもこの年でさくらにこんなサービスをしてもらえるのはさくらの金儲けだと最初は思っていた。ところがそれは違うと気がついたから、せめてワシの懺悔の意味で・・・さくらの小説のネタにと」

「そう、わかった青ちゃん、ぜひ書かさせていただきます」

それを聞いた青ちゃんのペニスが一気に起き上がった。79歳とはいえ日本一のペニスだと自慢することがわかるほどカタチが良い！とはいってもさくらを抱いて腰を使うほどの体力はないからさくらが上になる。そうして青ちゃんの身体にヨイショとまたがると同時にさくらの秘部も前回のセックスの良さを覚えているのか奥から愛液がさくらの許可なくあふれ出てきた。

「青ちゃん、まだ何のサービスもしていないけどこのまま入れてもいい？何かさくらの奥がジンジンするの・・・」

「さくらいいよ！」

「ありがとう、青ちゃん、さくら思いっきり声を出しても軽蔑しない？」

「なん・・・20分や30分は大丈夫だから、ワシのことはかまわず楽しんで、なにせ日本一やから！」

さくらはいつもサービスする立場だが、いや今も上に乗ってサービスはしているが、なにせ肌が合うのか？ペニスが合うのかさくらは「青ちゃん～ア～イ～、ウッウッウッィィ～日本一のタクシー、日本一のチンチン最高～」と久しぶりにセックスの真髓を楽しんでいた。

★～↑の小説の余談・ある警察OBがこのタクシー会社の渉外担当として入社した。この元刑事は〇県出身でこの話を「青ちゃん」にいうと、青ちゃんは懐かしがって〇県〇市にいたことがあると口をすべらしてしまった。この元刑事は、入社する前には青ちゃんの自伝を読んではいたがどこを探しても〇県のこと書いてはいない。そこで〇県の警察の後輩に違反だが色々調べさせたら↑の小説のようなことが出てきたそうです。

もちろんこの元刑事さん、スリの下で働けないといって辞表をたたきつけたそうです。

★～さくらの客は京都でも有名人が多い。それは財界のサロンで「さくら」から若さをももらった、生きる勇気をももらったと誰もが自慢しているからだ。京都は戦後のベンチャーから一流の会社に育てた経営者が多い、そしてその多くは死に物狂いで商売する傍ら暴力団との繋がりも否定は

しない、これは戦後の混乱期の社会背景としてはやむをえないことがあったもわからない。そしてその会社もほとんど息子が二代目社長となって創業者は会長として生きています。その会長の闇の部分は墓場まで持っていくものだが、人間というものは不思議なもので「さくら」の前では懺悔をしてしまう。いや懺悔というよりさくらになにもかも話して楽になって死にたいというのかもわかりません。（伊奈利）

☆～この小説は「老人と性」シリーズの1話を紹介しています。

老人と性は、<http://p.booklog.jp/book/16816>

★～～★伊奈利・ついに禁煙法違反で逮捕される！

先週のある雑誌に私のコラム「禁煙のススメ！」が掲載されて、それを読んだ中年の美人女性が話しかけて来ました。この女性はJR京都駅のタクシー乗り場に派遣されている警備員のAさんです。Aさんは、

「私も煙草を吸わないのでタクシー車内の煙草の匂いが気になります。最近、禁煙車を指定されるお客さんが増えて来ました。その都度、行灯の禁煙マークのタクシーを捜しますが、なにせ絶対数が足りないためにご迷惑を掛けています」

「そんな場合は？」

「駅から外に出て禁煙車を探されますが、やっぱり全社禁煙のMKタクシーとなります。特にお茶会などの着物の方は匂いが染み付くと口込みで地方の方にもMKファンが増えています」

もはやMKタクシーに勝てるキャッチコピーは「愛煙家の味方、自由に煙草をどうぞ！」と開き直るしか手しかありません。嫌煙党の主張はすべて正しいと思います。愛煙党の党員はもはや嫌煙党に転向するか、地下に潜り込むしか方法はありません。

2010年X月X日の新聞です。「煙タク初検挙」されるの大きな見出しで、記事は、タクシー内での禁煙が法律で決められてから1カ月目の昨夜、祇園の歓楽街の路上で「煙草を吸えるタクシーはいかが」と客を誘い、高槻までの約30分間に客に3本のマイルドセブンをタクシー車内で吸わせた疑いで運転手の音川伊奈利と煙草を吸った客のAを公共交通等迷惑条例違反で現行犯逮捕したとあります。

そして知識人のコメントでは、

「タクシーは、市民なら誰でも乗れる公共の足、その場で客に煙草を吸わせたり運転手本人がタクシー車内で吸うとは道徳以前の問題で裁判所は厳しく処分をするべきだ！」

この新聞を見た京都の喫煙率78%の運転手は、煙草をやめるか、それとも会社をやめるかを迫られてノイローゼになり京都のタクシーの稼働率は大幅に落ち込み社会問題になったが、元々禁煙車だったMKだけが100台増車して京都ではダントツのシェアを維持していた。

(もちろんこれは、フィクションですが、そうなる可能性も少しはあります。ちなみに私は、バリバリの愛煙家ですが、たのまれれば「禁煙のススメ！」なんて朝飯前に書けますから、作家なんて信用は・・・)

.....

★～私の小説で自己破産をテーマにしているのがあります。これは主人公を女性にしていますから少しH系ですが、自己破産までの流れが書いてありますから参考になります。とりあえずは裁判所に走りこめば今月からの返済はストップできますから自殺というような最悪のことはなくなります。ぜひ、読んでください。

長編小説「京都フラワーランジェリー物語」

<http://p.booklog.jp/book/16636>

短編小説100連発

<http://p.booklog.jp/book/16691>

老人と性「京都タクシードライバー・さくら」

<http://p.booklog.jp/book/16816>

7人の天使の恋～美雪編の1話

<http://p.booklog.jp/book/16980>

7人の天使の恋～早苗編の1話

<http://p.booklog.jp/book/17421>

7人の天使の恋～香奈編の1話

<http://p.booklog.jp/book/17691>

☆☆☆～音川伊奈利の小説の総合案内は、

<http://p.booklog.jp/users/sakura64>

女子高生まりあの日記・お母様の6人目のHフレンド

『お母様の6人目のHフレンド』〜〜〜作／音川伊奈利

私のお母様は、
まだ男を5人しか知らないといつもこぼしています。

そして、まりあに、
「まりあ、お前まだ高校生なのに
男を10人も知っているのは異常ではないかい？
あ〜うらやましい」
といつもほざかれています。

私も頭に来て、
「あら、お母様、健二か卓也ならお貸ししますよ！」
というとお母様は、
「まりあ、どうせなら、家庭教師の星野さんを貸してくれないかい？」

私もお母様には生まれて16年間育ててもらった恩義もあるし...
そこで、星野さんを親子で共有することになりました。

星野さんは東京大学の法学部の学生で、
毎週月曜日の夕方5時にきます。
そしてその日が来ました。

星野はまりあの部屋に入るなりキスを求めてきた。
まりあは、それをストップさせて、
「星野さん、まりあのお母様のことどう思っらっしゃるの？」
「お、お母様はとても素敵です。黒木瞳さんに似ている！ファンです」
「そう、それならお話は早いわ。
たしか、星野さんの家庭教師料は2時間で5000円でしたネ。
それを、まりあが1時間お母様が1時間という時間割にしていただけませんか？」
「はあ〜お母様に何を教えるのですか〜」
「それはなんでもいいの、
それを承知していただけるのなら2時間で6000円に値上げします」
「はい、ありがとうございます。喜んで！」

まりあは商談成立したのを確認してから星野をベッドに誘った。
星野はまりあの身体を隅々まで口と舌で愛撫している。

そのころお母様は、シャワーを浴びてからまりあの
セクシーランジェリーを借りて何を着ようかと
ルンルン～気分で品定めをしていた。

そして1時間程度にお母様はまりあの部屋をノックしていた。
まりあはパンツ一枚でドアを開けて
お母様を招き入れた。

星野はまりあのベッドで煙草を吸っていたが、
お母様のセクシーランジェリーを見て目を点にしていた。

まりあは、星野先生に
「はい、お母様の家庭教師もよろしくと丁寧に頭を下げている」

星野はもらったばかりの6000円をポケットに入れて
帰りのバスをバス停でまっていたが...
「うん？なんか儲かったような損をしたような...」

そのころまりあ母子は食事をしながら、
「まりあ、最高の親孝行をありがとう」
「お母様、もうこれでホストクラブにいかなくてもよろしいですわ...」
「そう、たった3000円で、東大生の若いエキスを～おっほほほ」
「まあ～お母様、なんてお下品な～おっほほほ」

(つづく)

★～ある日、制服姿の高校生のカップルを私のタクシーに乗せた。行き先は堂々と「京都南インターのラブホテル」と告げたが、これを制止する法律も権限も私にはない。それを感じたのか女の子が「運転手さん、私達昼間のサービスタイム5時間3000円ポッキリの部屋で先輩に勉強を教えてくださいます」と...そこで私も負けずに「そう～なんの勉強？」と切りかえしたら、「そら～まじめな学校の勉強と社会勉強」とぬかしやがった！。

★～まあ～高校生だからといってセックスをしてはいけないなんていうのも今時ナンセンスといわれるが...どうか病気と妊娠だけは注意してください。ぐらいしかいえないのね～(伊奈利)

まりあの高校教師は童貞

～～女子高校生...まりあの日記②～作／音川伊奈利

私のお母様は、

自分で男を物色しないで「まりあ」のボーイフレンドばかりを狙っています。

そして、まりあに、

「まりあ、今度の学校の若い先生...ほれ...」

「ああ～吉川先生...あれはお母様ダメよ！」

「ど、どうして、イケ面の体育教師で太股の筋肉と前のモッコリがセクシーじゃないの？」

お母様、今日は『性に関する調査』というのがあってそのアンケートに「オナニーはしていますか？YES・NO」があったの。

「へえ～まりあの学校はススデいるね～そ、それで？」

「それで、吉川先生にオナニーってなんですかと聞いたの」

「そ、そしたら...な、なんて...」

先生、真っ赤な顔をして...蚊の鳴くような声で、

「...自分ですること...」

まりあは良く聞こえなかったの、

「先生、何をするんですか？自分で...どうするんですか？と聞いたの」

「そ、そしたら、イケ面教師はなんて...」

「黙っていたの～そしたら男子生徒が」

「先生、先生はオナニーしていますか？俺らは毎日です」

「いや～先生は、...していない...」

「へえ～先生は女にモテるんや～もう何人とやったの～先生！」

「いや～俺は...まだ独身だし...」

「へえ～まさか！先生、童貞？～俺らのクラスの男子は全員童貞なんてとっくに捨てたんやで...」

「そ、そしたらまりあ、先生は？」

お母様、先生そのまま教室から飛び出して午後の授業はお休み！校長や教頭先生が吉川先生を探していたけど～明日もたぶんこないのよ～お母様。

「そう～もう30前になって童貞なんて汚いよね～まりあ」

「そう、高校生なら可愛いけど～お母様」

「その高校生の童貞もまりあに紹介してもらって3名だったかな？まりあの他のクラスの男の子いないの？」

「そんなん、他のクラスの男を誘惑したらそのクラスの女番町に袋叩きにされるわ～お母様～もう、あきらめてね！」

「まりあ～他の学校に転校しない？」

「もう～お母様～ほら、もうすぐ家庭教師の星野さんがくるから我慢しなさい」

「はいはい、まりあ...今日は先にいただいていいの～？」

「はい～あいにくまりあは月のものが...」

「あら！ラッキー！」

★～という微笑ましい母娘の会話でした。

ちなみに「まりあ」は東京大学の法学部の受験生で一発合格は保証されているような賢い娘です。。。

朝まで3回イカします

～～まりあの日記～「朝まで3回イカします～」

まりあとお母様は何でもお話ができるフレンドなのです。いつも夕飯時はテレビを消して親子のコミュニケーションを大事にしています。今夜も、

「まりあ、次の日曜日ぐらいに一人で京都に行ってもいい...」

「あら、お一人で...めずらしいこと！また男ができたの？お母様」

「なによ～まりあの東大受験が成功しますようにと京都の北野天満宮にお札を貰いにいくのよ～親ごころよ～まりあ～」

「おほほほほ...お、お母様、いつからまりあに隠し事をされるようになったのですか～お～ほほほ」

「あら！わかるのまりあ？実はネ！パソコンの掲示板で京都の中年の「イナリ」さんという人とお知り合いになって...」

「うふふ。。。お母様は高校生とか大学生専門でなかったの？それがおじさま～変ね～お母様」

「そら～若い男のほうが...でも...」

「でも？な～に～お母様」

お母様は夕飯のお片づけもしないで、まりあをお母様の寝室に手招きされたの...。まりあのパソコンとお母様のパソコンは別々でお母様がどんな掲示板やチャットで遊んでいるかは知らなかったの。

お母様は手馴れた手つきで掲示板を開けてまりあに読めとっている。そこにはイナリさんが、

「まりあ様、一度京都の秋は最高ですから遊びにきてください。イナリはHにはものすごく自信がありますからまりあ様を朝まで喜ばします。まずオッパイを20分、まりあ様の秘部を30分それぞれ指と口の愛撫で満足させます。そしてペニスを挿入してから30分は荒々しいピストン運動をいたします。もしよろしければこれを朝まで3回まではいけます」

お母様、この「まりあ」っていうのはお母様のHNなの？

「まりあ、可愛いHNでしょう？」

「もう～どうして私の名前を！そ、それで？」

「えっ！それだけだよ～まりあ、もうこれを1ヶ月も毎日誘惑されているの～それで...なんか悪いと思って...」

「でっ！お母様は何歳にしているの？」

「私は、28歳の東京丸ビルのキャリアーウーマン」

「まあ～お母様～お若い！」

「まりあ...若い男の子はこのイナリさんのように挿入して30分ももたないのよ～ほら、こない

だまりあの家庭教師の星野さん、あの人なんて3分ももたないのよ～それに比べたらイナリさんは～うふふ。。。」

「でもお母様、こんな掲示板はウソばっかしよ！」

「でも...もし本当だったら一生の不覚よ～まりあ～」

そこでまりあが同じHNでそれを確かめようと掲示板に、

「イナリさま、では今週の土曜日の夕方新幹線で京都に伺います。ホテルは都ホテルのスイートルームを予約いたします。もちろん費用はこちらですべて持たせていただきます。そこで約束していただきたいのですが、愛撫を合計50分、イナリさまのペニスがまりあの中に30分滞在させてくださることは間違いはございませんか？お返事は今夜中にお願いいたします」

というカキコをしていた。まりあとお母様はその返事を心から待っていたが深夜の2時になっても返事はなかった。そしてあくる日の朝、イナリの掲示板は消滅していた。

ネ～お母様、あのイナリは口ばっかしよ！これからは掲示板なんて信用してはいけないのよ！お母様！」

お母様は下を向いたまま一言、

「まりあ...家庭教師の星野さん、また貸してくれる？」

「はいはい、なんならお母様にあげてもよ～」

「まりあ～ラッキー！」

(おわります)

★～まあ～掲示板ならウソとはいわないがなんでも好きなことが書けます。夢や希望を語るのもいいし～たまにはグチを書きたくもなります。↑の小説のようなカキコはないが私も掲示板を一つ持っています～よろしければ遊びにきてください～♪

<http://bbs.teacup.com/?parent=hobby&cat=1810&topics=10696>

ある日、年配の女性と若い男性が乗車されて、「運転手さん、無理なお願い聞いていただけます」

「はい、何でもどうぞ、観光なら得意ですから」

「いえ、観光と言えるかどうか...実は～」と今日の目的を聞かされた。

この親子は、岡山から来た人でこの春から一人息子が東京の大学へ行くそれで初めての日帰り旅行をと京都へ来たが、それが観光ではなくて何か一生の思い出を残したいと言う。

「一生の思い出ですか～」

「はい、この子の父親は早く亡くなり、私は死に物狂いで働いて高校までは何とか、ところがどうしても東京の大学へ行くというので...息子は奨学金とアルバイトで生活は出来るというので、でも東京と岡山では余りにも遠すぎるのでしばらく会えないので...私も二十数年働いた会社が倒産して今は失業保険暮らしの上、体調も良くないし...」

「そうですか、わかりました」と応えたが私の頭はパニックになっている。

清水寺の舞台から飛び降りれば一生の...いや、怪我をする。金閣寺の池に一、嵐山の渡月橋から一いやどれもこれも人騒がせするだけだ、
一生の思い出～ウーン、そうだ°！。

「お母さん、五山の送り火を知っていますか？」

「はい、大文字焼のことですね」

「そうです、それを何で知りました」

「いつも、お盆にNHKのテレビで...主人が亡くなってからはいつもテレビに大文字が映ると息子と二人で手を合わせています」

「それなら丁度良い、どうです、大文字山に登りませんか？」

「え、山ですか？」

「いえ、山といってもほんの三十分ほど歩けば大の字の火床に行けます。そこからは京都が一望出来て素晴らしいです。それにここなら年に一度は必ずNHKの九時のニュースで放送されます。東京と岡山と同時にです、離れていても一生の思い出になります」

それまで黙っていた息子が始めて口を開いて、

「お母さん、そうしよう。金閣寺や清水寺は俺が学校を卒業して就職したら必ず連れてやるから、今日は運転手さんの言う通りに...」

どんな小さな山でも山は山。曲がりくねった坂道は自然に親子の手を固く結ばせ、息子は照れもせず母親の額の汗を拭いていた。

★～大文字山は銀閣寺の裏山にあり門前を北へ一本道になっています。大文字の火床までは約30分で行けます。途中にはこの山が大昔地中にあった証拠としての「貝の堆積」の地層があります。京都の人はこの大文字の火床に残った黒い灰を持ち帰り「家内安全」のお守りにしています。尚、小さな山でも山ですから火床から奥へは絶対に行かないでください...遭難の恐れもあ

るからです。

★～銀閣寺からは哲学の道～法然院～永観堂～南禅寺～と歩くコースになっています。健脚の方は、さらに平安神宮～知恩院～円山公園～八坂神社～高台寺～清水寺～三十三間堂～J R 京都駅。このコースは先に市バス（220円）タクシー（J R 京都駅から約2000円）に乗って銀閣寺に行くほうが便利で復路もししんどくなったり時間がなくなれば即タクシー、市バスに乗れます。

★～身障者手帳をお持ちの方は全国共通ですから忘れないように！この手帳を明示すればタクシーは10%割引、各観光寺院にも本人無料、介添え者割引等々のサービスもありますが、これは拝観料の券を買う窓口には不親切にも書いてありません。いずれ私がこの問題をこのブログ等で改善いたします。

夏の夕暮れ、宇治の国道24号線で若い女性が手を高く上げてタクシーを拾った。客は岩倉までと告げた。私はこの暇な時に宇治から京都の北部までの客にありつけラッキーと思っていた。

その娘は17～18歳でまだ幼さが残る笑顔は透き通るように白い、小一時間の道程でその娘は病気をして入院をしている。今日は法事のため外泊がゆるされ家に帰ることなどを私に楽しげに話している。タクシーは川端通りから白川通りに入ると、娘は右前方を指さして、

「ほら、あの店「レストラン・まゆ」は私の名前「真弓」から取っておとうさんが付けてくれたの」

「へえ～そうなの、ここにこんな店があるのは知らなかった」

「そらそうよ、まだ開店していないの、私の病気が治るまで」

「それなら病気が治って、店がオープンしたら必ず行きます」

「うれしい～♪」

車は岩倉の閑静な住宅街に入り、娘の指示通りの家の玄関に止めた、娘は、

「運転手さん、少し待ってね、お金もらってくる～」

それからもう十数分たつが誰も出てこないの、玄関のチャイムを鳴らすと母親らしき人が出てきた。

「すみませんータクシーですけど～」

「はい？、うちはタクシーをたのんでいません...」

「いやいや、その～娘さんの分です」

「娘...娘って、真弓のこと」

「はい、その真弓さんを宇治の病院の前からここまで...」

その母親は、真っ青な顔になり、「お、お父さん～」

ようやく事情がわかったのか部屋に通された私の目に、真新しい仏壇と遺影が入った。そこにはさっきまで私のタクシーに乗っていた真弓が笑顔で私を見ている。

真弓は白血病で宇治の病院で亡くなった。そして昨日葬儀が行われていた。両親にタクシーの中での会話を伝えると、母親は涙を流して、

「真弓を家に連れて帰ってもらってありがとうございました。これであの娘も成仏できます」と、何度も頭を下げられていました。

★～タクシーと幽霊というのは何かと縁があるものでこの京都でも、真夜中に美人を乗せたがルームミラーには映らず運転手が後ろを見ると乗せたはずの女性が消えていた。そして座席はびっしょり濡れていたというものです。

★～この幽霊が出没する場所というのも病院の裏、墓地、池の近くと相場も決まっています。また京都らしく平安時代の風葬の跡地の北嵯峨野、渋谷街道、蓮華谷となります。この渋谷街道の裏山は豊臣秀吉の墓がある阿弥陀ヶ峰で、その裏山の谷には今でも京都市の火葬場があります。つまり一千年以上もここは死者の最後の場でもあるのです。

★～国道1号線の山科から京都市内の抜け道として私もよくタクシーで通りますが、やはり空車でも行灯を消して大急ぎで通り抜けますがやはり一千年の怨念というのか靈気が...この怨念の谷になぜか女子大のテニスコートと女子寮があります。この話をもしこの女子大の寮生が偶然読んだら！～ケケケ

ペニス1万本～男は「知性とやさしさ」

狭い京都を走っていると同じお客さんを何回も乗せて親しくなります。毎日昼前に乗られる三十前後の女性は木屋町の人妻サロンに勤めておられ、私にも超過激なサービスをするから一度店にくるように誘われます。

「お客さま、やっぱり人妻ですか？」

「いえ、独身だけどこの道一筋で雄琴からヘルス、三十過ぎればピンクサロンと相場が決まっているの」

「それならもう星の数ほどペニスを！」

「そら～もう何万本よ！」

「へえ～それで日本人の平均はサイズは何センチぐらい？」

「そうね | エッチビデオのようなビックサイズの人たまにはいるけど～そんなの痛いだけよ。だって考えて運転手さん、女の奥行きサイズは8～10センチなのよ、それに合うサイズが男の人の平均よ」

「そんなもんですか？」

「そう、勃起時に8～10センチあれば充分なのに、アホな男は小さいとか大きいとかで悩んでいるんだって？」

「ええ、その通りで15センチもあっても小さいとかで～!」

「そんなのナンセンス。私の知っているナンバーワンのホストなんて勃起時10センチでお金持ちのおばさまを狂わしているわ。男はネ、知性とやさしさがあればたとえ5センチでも女にモテルわよ」

「知性とやさしさですか？」

「そう、それと少しのお金。運転手さん、40分1万円で遊んで行かない？運転手さん、やさしそうだから店内緒のサービスをしたげる」

そういえば私の友人で馬並のペニスを自慢している男がいましたが、何故か今だに独身で浮いた話も聞きません。その反面ペニスが小さいと悩んでいた友人はモテモテですから、ベテラン風俗嬢のご意見には説得力があります。

もしこの方面で悩みがあるご同輩諸氏、恋人や奥さんにこの文章をプリントして何気なしに見せることをお勧めします。そして「知性とやさしさ」を身につければビジネスにも恋にも強い味方になることを請け合います。

★～なぜ男は風俗で遊びたがるのかω

それは簡単です。恋人や妻とのセックスは男が女性を満足させて当然の風潮がまかり通っています。これは付き合っている期間や新婚ならともかく、釣った魚に餌はいらないのごとく結構セックスはしんどい仕事ですからつい嫌になってしまうのです。

★～ですからこれを解決しようと思ったら夫婦で風俗ごっこをしたらいいのです。今夜は妻が夫をマンゾクさす日とかを決めるのです。もちろん妻は風俗嬢のごとくセックステクニックを磨く必要もありますが、これを嫌とか恥ずかしいとか、夫は妻を満足さすものだからいいやがったら

もう離婚するか浮気するか風俗で遊ぶしか方法はありません～キャハハハ

★～もうこうなれば妻もだまっちはいまへん、不倫の一つもやったろかとなります。夫婦和合は妻が助平～になることです。ケケケ

天使の恋～美雪...早苗...香奈～ 3名の恋の物語

<http://p.booklog.jp/book/18492>

今、話題沸騰の小説・老人と性「京都タクシードライバー・さくら」は、

<http://p.booklog.jp/book/18483>

★～私の小説で自己破産をテーマにしているのがあります。これは主人公を女性にしていますから少しH系ですが、自己破産までの流れが書いてありますから参考になります。とりあえずは裁判所に走りこめば今月からの返済はストップできますから自殺というような最悪のことはなくなります。ぜひ、読んでください。

長編小説「京都フラワーランジェリー物語」

<http://p.booklog.jp/book/16636>

短編小説100連発

<http://p.booklog.jp/book/16691>

☆☆☆～音川伊奈利の小説の総合案内は、

<http://p.booklog.jp/users/sakura64>

☆～音川伊奈利のメールは、kyotoinari@ex.biwa.ne.jp